

Photobook

群馬大学 手話サポーター 養成プロジェクト室の 取り組み

2023



Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

 群馬大学
手話サポーター養成プロジェクト室
SIGN LANGUAGE

PROJECT

群馬大学手話サポーター養成プロジェクト室では2017年度から、日本財団助成「学術手話通訳に対応した通訳者の養成」事業を開始し、学生に手話および手話通訳技術の習得を目指す授業を開発・実践してきました。

そんな中、2020年度からはコロナ禍のために、突然授業は全てオンラインとなりました。しかし私たちはオンラインの授業においてもより良い手話通訳技術習得のための教育が行えるよう工夫、開発を続けました。そして2021年度、新たに日本財団助成「聴覚障害に関わる支援人材育成を目的とした遠隔手話通訳システムの構築」事業に取り組むこととなりました。2023年、再び対面授業ができるようになった今、オンライン授業と対面授業、それぞれの良い点を取り入れ、更にレベルの高い授業を目指し実践を進めています。



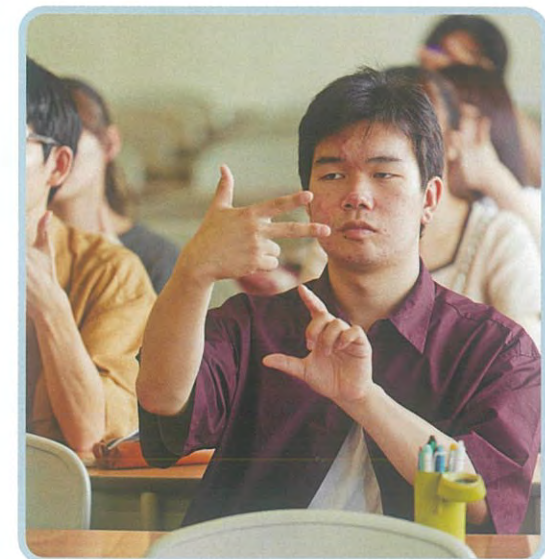
手話とろう文化

対面でも 100 を超える大人数の授業でしたが、オンラインになったことで公開講座による一般参加も可能となり、あわせて 300 人を超える受講者数になりました。学生によるオープニング、役者になりきったスキット、ろう文化や手話の文法の解説と、盛りだくさんの 90 分を、スタジオから画面合成をして配信します。

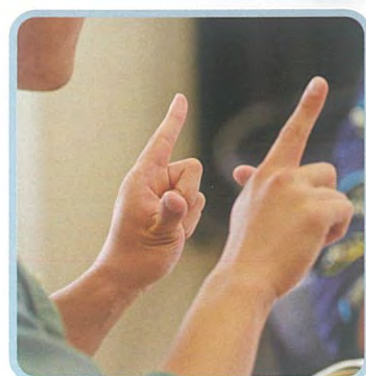
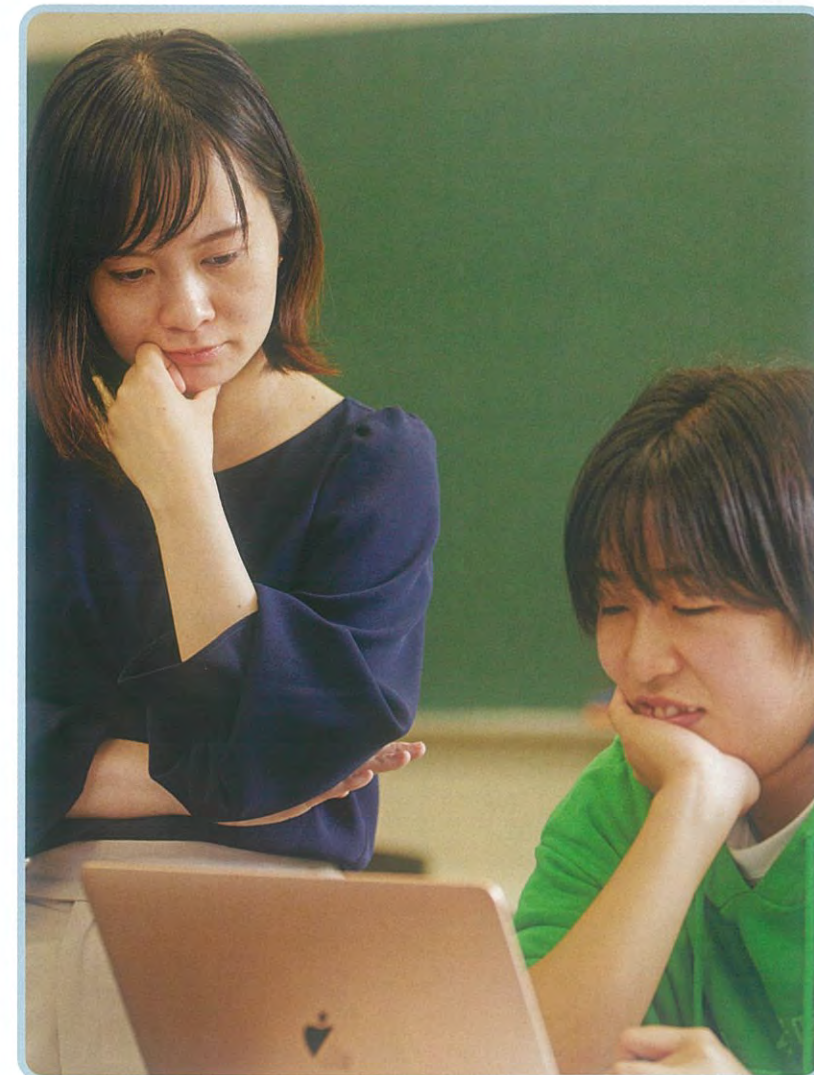
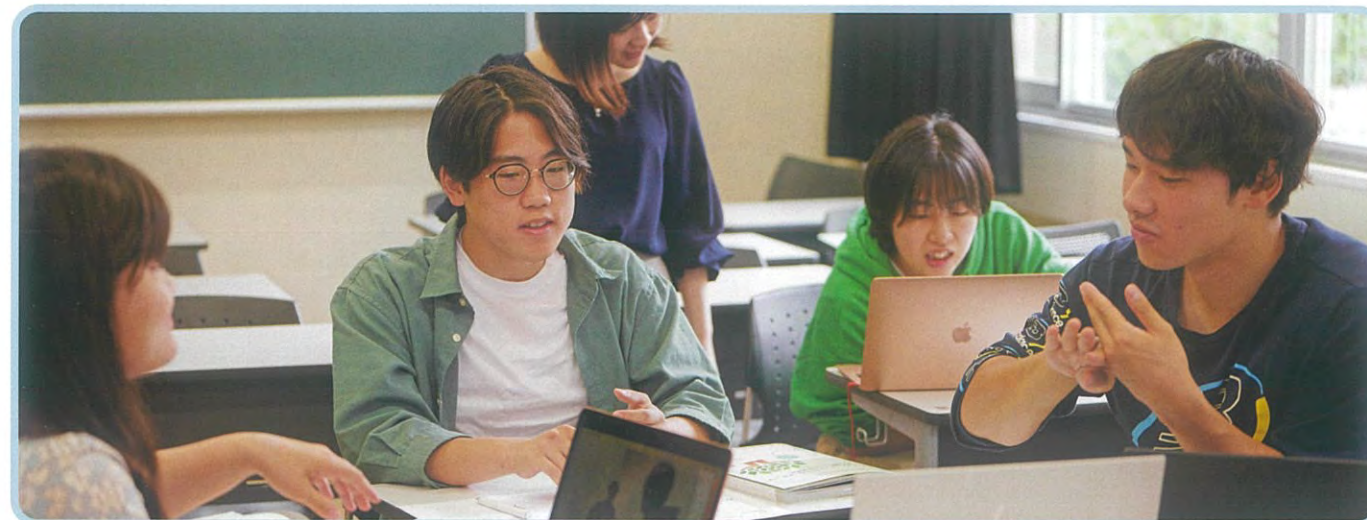


言語としての 日本手話

オンライン授業開発の中で導入した学生中心の言語活動による学習を、対面授業に戻った中でも活かしています。これにより確実に学生の手話スキルを引き上げていきます。



日本手話と 日本語の違いを学ぶ



2～3年生向けの手話通訳養成の授業「日本手話と日本語の違いを学ぶ」では、同じ空気感の中で共に笑い、共に悩み、共に問題解決を図っていく対面授業の空間を大切にしています。手話の授業・学習ニーズに特化して開発したLMS「遠隔手話教育システム」を通じて動画課題の提示・提出・確認もでき、対面授業でも大活躍しています。

聾重複・盲ろう児者支援



手話スキル・手話通訳スキルを習得した4年生や、大卒生を対象にした専攻科生向けに、聴覚と他の障害を併せ持つ重複障害児者のための支援技術を学ぶ授業もあります。身体表現活動や触手話や指点字の実技指導など、「触れ合い」を大切にする授業です。

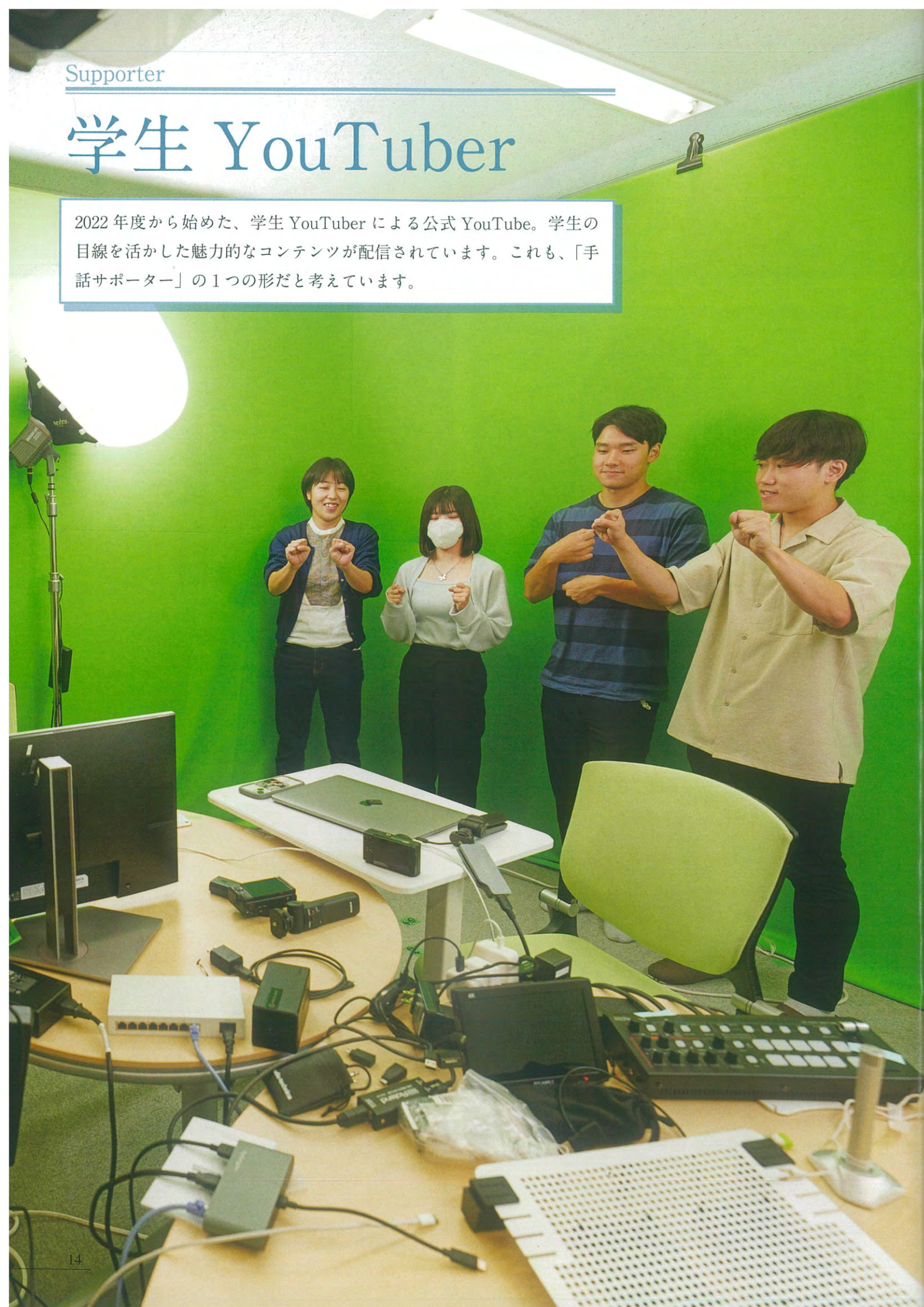
事業を支えるスタッフたち

授業準備と授業に追われる日々ですが、だからこそチームワークが大事。そして手話の会話が当たり前の日常が、スタッフたちの表情をいきいきとした良い笑顔にさせてくれています。



学生 YouTuber

2022年度から始めた、学生 YouTuber による公式 YouTube。学生の目線を活かした魅力的なコンテンツが配信されています。これも、「手話サポーター」の1つの形だと考えています。





Photobook
群馬大学手話サポーター
養成プロジェクト室の取り組み
(2023) 2023年9月発行



HPはこちら

国立大学法人 群馬大学 手話サポーター養成プロジェクト室
〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4丁目2番地
<https://sign.hess.gunma-u.ac.jp>
TEL : 027-220-7157 (直通) FAX : 027-220-7390
E-mail : signstaff@ml.gunma-u.ac.jp